

35. 螢光染料処理した白綿布の茶汚点の影響

東京家政学院短大

吉永 フミ

黒田 早苗

1. 近来螢光染料処理はあらゆる繊維に應用されているがその功罪も消費者が種々わかり始めてきたようである。罪については、茶汚点、汗汚点、その他一般に汚点がつくと処理してない布より汚点が顕著に出るといわれているのでその中の茶汚点を実験的にどのような影響をすものであるか、でき得ればその影響を受けない安定性のある螢光染料があるであろうかと考えて研究を行なった。

2. (1)螢光染料の比螢光強度を一定にして、五種の螢光染料で処理した布を調製し、これに抹茶、煎茶、紅茶、コーヒー、レモン汁を付着させ、その結果の比螢光強度を測定した。次にこの布を洗濯し、その後の比螢光強度を測定した。(2)螢光染料処理のない布に前記同様五種の茶汚点をつけ、これを洗剤四種を選び、それぞれ指示した濃度でランドロメーターにより洗浄後その比螢光強度を測定する。測定は、紫外線灯照射、デュボスクの比色計を用いるお茶の水女子大矢部教授考案の装置による。

3. 肉眼判定は困難であったが上記測定により茶汚点によって螢光強度は確かに低下し、染料の種類によりその差異があり、影響の極く少ない染料もあること、また茶汚点によっても非常に差のあることが判明した。